

豊田市中心市街地活性化計画に関する意識分析

豊田工業高等専門学校 南部直裕 岐阜大学 二村春香
豊田工業高等専門学校 荻野弘 豊田工業高等専門学校 野田宏治
(財) 豊田都市交通研究所 大場健司 豊田市役所 関範夫

1. はじめに

豊田市では近年、その中心市街地において相次ぐ大型店の撤退による買い物客の減少や、都心地区の商店街の衰退が目立っている。こうした現状に対し人や物が行き交い、賑わいのある地域コミュニティの中心として再生（活性）することを目的とした「中心市街地活性化基本計画」（以下「基本計画」）が平成12年に策定された。しかし、計画が一人歩きせずに十分に市民に認識されたうえで事業が計画通りに進行しているか、が重要なことと考え、本研究では基本計画に記されている事業が市民にどれほど認識されているかを調査し活性化に至っていない要因を意識面から明らかにし、またそれを改善するための考察を行う。最終的には一般市民・商店街・行政の三者の認識の違いを比較することを目的とするが、今回はまず商業の不振に着目し商店街と行政の比較を行った。

2. 豊田市中心市街地の現状

豊田市はクルマの町として早くから栄え、中心市街地も賑わいを見せていた。しかし近年は車の普及に伴い、大型の駐車場設備が整う郊外型の大型店舗を利用する市民が増加している。豊田市民の買物地区¹⁾を図-1に示す。中心市街地で買い物をする市民の割合は年々減少しており、最近では国道248号沿線や市の他の地区あるいは市外で買い物をする市民のようになってきている。その影響から中心市街地の活性が失われ、商店数も減少傾向²⁾にある。

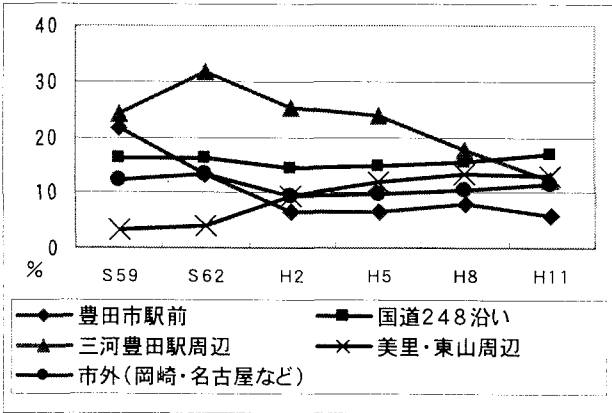


図-1 豊田市民の買物地区 (S60~H11)

3. 活性化基本計画に関する意識調査³⁾

3-1 調査対象

調査対象は中心市街地に立地する10商店街の店主と、企画・産業・土木関係部署に所属する市職員である。配布・回収状況をそれぞれ表-1、表-2に示す。

表-1 商店街への配布・回収状況

配布商店街	店舗数	配布数	回収数	有効回答率 (%)
喜多町	14	9	9	64
駅前商業	26	20	19	73
新豊田	42	29	29	69
駅東発展会	10	7	7	70
竹生商店街	44	34	33	75
ひまわり	22	15	15	68
一番街	23	16	16	70
桜町	23	19	18	78
西町	97	97	46	47
T M S E E D	11	11	11	100
合計	312	257	203	65

表-2 市職員への配布・回収状況

部局	所属課・部署数	全数回収	構成比率 (%)
総合企画	5	28	8
産業	6	74	21
建設	9	128	37
都市整備	14	116	34
合計	34	346	100

3-2 調査内容

調査項目は、基本計画に記されている各事業66項目の内容を分解・選択して68項目の設問形態に再編し、それら事業の進捗状況と期待度を5段階で聞いた。また68項目を整備の対象ごとに6分野に集約し(表-3に示す)、各分野別の総合的な評価も聞いた。

表-3 事業項目の分類

①	中心市街地の商店街整備事業
②	まちづくりをするための組織・制度づくり
③	中心市街地でのソフト事業・支援
④	中心市街地の交通事業
⑤	中心市街地の施設建設事業
⑥	中心市街地の居住空間整備事業

4. 調査結果

意識調査は商店街に対しては平成15年1月に事前の電話のあと係員による訪問配布・回収、市職員に対しては同年2月に直接配布・回収の形式で行った。事業を集約した6分野の総合的な進捗状況の認識について商店街のものを図-2に、市職員のものを図-3に示す。図-3より、すべての分野の事業について市職員はその2割強が「完成」、「ほぼ完成」と回答してい

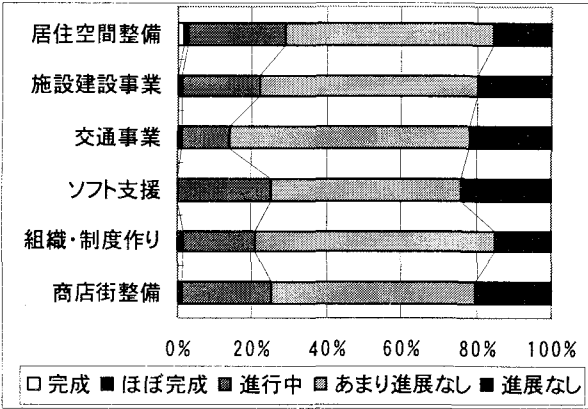


図-2 進捗状況の評価（商店街）

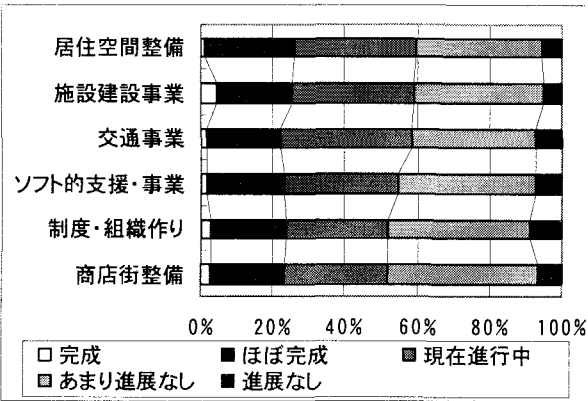


図-3 進捗状況の評価（市職員）

る。これに対し商店街は、図-2より「ほぼ完成」を含めても「完成」という認識はすべての分野で極めて少なく、7割以上が「進展していない」と評価している。期待度については各項目とも両者半数以上が「期待する」と回答した。商店街、市職員ともに期待の高い事業・低い事業を図-4に示す。福祉関連や景観面等のハード面の事業への期待度はともに70%以上と高いが、逆に中心部からの車の排除的な事業やソフト的な事業への期待は市職員で40%程度、商店街では約30%と低かった。また、両者の期待度に差のある項目を図-5に示す。商店街の自主的な活動に関する事業に対して市はより多くを期待しているが商店街はやや消極的であり、住宅整備に関する項目での期待度は商店街店主が市職員を上回っている。

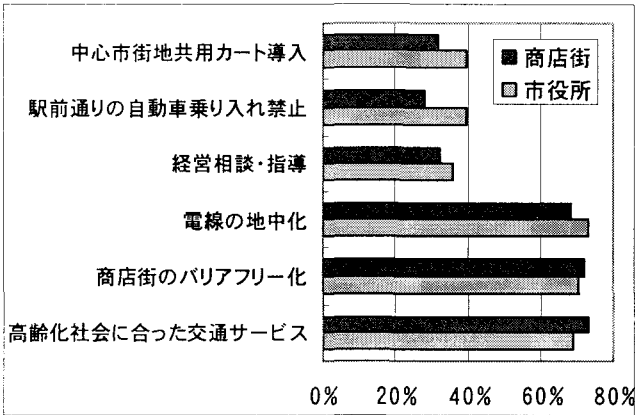


図-4 期待度の高い項目と低い項目

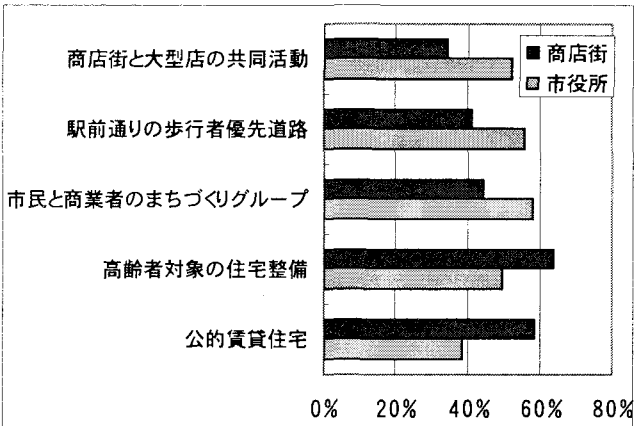


図-5 期待度に差のある項目

5. 考察

結果から、期待度については差のある項目がいくつかあり、事業の進捗状況に関しては職員と商店街の認識に大きな差があった。またいくつかの事業については「わからない」との回答も多く、商店主の事業に対する認知度の薄さがうかがえる。これは事業の広報活動が不十分で事業内容が商店主に行き届いていない結果だと推察されるが、市の職員でさえ「わからない」と回答した方が3割以上の項目もあり、ややもすると担当業務中心になりがちな職務中心から広範囲な市役所業務を認識・把握させる事が必要なのではないだろうか。そのうえで行政の主導ではなく商店街も積極的に組織を作り自らが活動し、行政がそれをしっかりとバックアップするというように相互で活性化を進めて行くべきではないか。

参考文献

- 消費者購買動向調査(S60,S63,H3,H6,H9,H12) 愛知県
- 豊田市の商業<卸売業・小売業> (H9) 豊田市
- 豊田市における中心市街地活性化計画の評価と考察 (H14) 豊田工業高等専門学校 二村春香